

第十一節 宗 教

1 〔通玄寺再建落慶祝詞〕 享保四年（一七一九）

〔解説〕 通玄寺再建に当たり、水上山主大非慧水が、通玄寺に贈った祝詞である。

謹賀通玄禅室落成

月斧為風幾年所

上梁有日已新成

幽叢條慶瑠璃界

自是随分好度生

維時享保第四己亥初秋八日

水上山主大非慧水九拜

（通玄寺蔵）

2 〔地獄極楽絵・十王尊図裏書き〕

安永四年（一七七五）

〔解説〕 通玄寺には、十三幅の「地獄絵・十王尊じゅうおうずん」が所蔵さ

れている。地獄は悪業を重ねた者が、死後苦報を受けると信じられている世界である。閻魔大王の前に並ぶ十王尊が、死者の生前の罪を審判し、その罪に応じた八熱地獄・八寒地獄など一三六種の地獄に送り責め苦を与えるという。この絵はあの世のむごい仕置きを表現した教化用絵画で、紙本極彩色の軸装である。安永四年（一七七五）梶原与三兵衛が先祖の菩提をとむらうため通玄寺へ寄進したもので、正月十六日、盆の八月十六日、本堂に掲示し檀家に公開している。
地獄絵・十王尊など裏書き

軸装 番号	裏 書 き
一	<p>本尊本師釈迦牟尼仏<small>文殊</small>普賢菩薩 明和四亥歳八月二十一日卒 為寿昌院富秀豊全居士 普明院貞相終完大姉 菩提 宝曆十四申年四月廿四日卒</p> <p>左之当主ノ両親也 右拾三幅之内巻軸ニ記載有之 文 曰 十王尊拾三幅之内通玄寺江納之 施 主 梶原与三兵衛 安永四年七月 細工人 家 元 右年号相改候処今明治七甲戌年迄、一百年ニ</p>

十三	西	釜の中へ、山からほうりこむ
十二	西	舌を抜く
十一	西	釜ゆで・針の山
十	西	蛇・姥
九	西	十王尊・石で潰し針でつつく
八	東	血の池
七	東	臼でつく
六	東	火の車
五	東	針の山
四	東	かまゆで
三	左	延命地藏尊
二	右	極楽之図

候 亘
 此祠堂ニ観音堂前畑耆杖之地所
 地獄・極楽掛物拾三幅江付也与記シ有ル
 今明治七年三月及び大破ニ候俣、別帳面ニ
 記シ有ル所ノ人別ヲ致シ、勸化修覆之者也
 現任職 泰嶺篤謹白

(成沢山・通玄寺蔵)

3 「百万遍大念仏の由来」 嘉永五年（一八五二）

〔解説〕 百万遍大念仏は、疾病退散、農業の豊作などを祈るため、六字の名号（南無阿弥陀仏）を七日間に百万回唱える勤行で、かつて鳴沢村にもその講があり、勤行に使った数珠が現在する。この史料は、九品浄土窟三世迎誉が布教のため六字の名号と、百万遍の由来を解説したものである。

抑六字の名号と申は、万法諸方の本源南利、昼六時夜六時、星の光りも六字の名号也、然に人間六根六志、四戒を持ち、昼夜に修するとも、南無阿弥陀仏の名号也、天に月の光り日の光りにて、三千大千世界を照らし給ふも南無阿弥陀仏の光明也、故に光明遍照十方世界、念仏衆生攝取不捨と説き玉ふ也、さればぼんでんたい志やく、閻魔王并に仏法守護の諸天善神、昼夜付添ひ守り給ふ、名号なれば只一念ニ忝も念仏可唱、南無阿弥陀仏の名号ハ、万法諸方の本源也、されば阿こん経を以て南の字越作里玉ふ、無加経六十卷越以て無の字越つくり玉ふ、大般若経を以て阿の字を津久り玉ふ、天台六十卷を津もり四十卷越以て弥の字を作り給ふ、法華経耆部八卷八本ヲ

以て陀仏の二字越津く里玉ふと申故に、南無阿弥陀仏と唱奉れハ、八万諸教を讀ミ奉る功德也、故ニ南の一字に七万五千仏納めたもふ、無の字ニハ無量寿仏籠り玉ふ、阿の字にハ十方三世の諸仏こもり玉ふ、弥の字には一切諸菩薩籠りたもふ、陀の字にハ八万の諸経かこ茂里玉ふと申故に、一度南無阿弥陀仏と唱へ奉れハ諸の仏越貴むゆへに皆是阿弥陀仏と説き給ふ南り、また神道にては、南の一字には伊勢両宮天照皇太神宮籠せ給ふ、無の字には熊野三社大権現籠せ給ふ、阿の字ニハ八幡宮籠せ玉ふ、弥の字にハ十羅刹女こもらせたもふ、陀仏の二字ニハ伊ざ南ぎ、伊ざ南ミの尊と籠らせ玉ふと申故に、南無阿弥陀仏と唱へ奉れば、も路くくの明神籠らせ玉ふ越、阿がめ奉る也、神と云も仏と言ふも、一躰分地にして別にあらず、衆生濟度のために仏とも神とも現して現世にては人間長久に守らせ給ふ、依之日本越ば神国と申事も此のいわれ也、諸の衆生念仏越後世の事と斗り思ふわだひ成るあやまり也、念仏の行者の身ハ今生にてハ諸天善神の氣に叶ひ、未来成仏うたかひなし、是六方諸仏の証誠の念仏を南とか申ざらんや、南無阿弥陀仏と申は、高

徳ハ西方と斗り申すにあらず、東西南北を入物にして七宝を積置き樂か如く也、たとへ堂塔伽羅を立て供養仕たるよ里、一念の念仏一遍の功德なおもく勝りたりと説き玉ふ、亦た四百四病起り、悪ぎやく悪神のうれひ入るとも百万べん念仏申所江ハ来らず、念仏現世ハ阿んおん後世撰取不捨とき玉ふ也、故に西方浄土を願ふ、安心して智慧阿るもちゑなきも身の穢たるも、とりあひず只一ト筋に弥陀の本願に縋り南無阿弥陀仏と唱ふべし、又た人間かうまんとて仏のきらハせ給ふ、ぢまんある一ツにハ智慧あるとおもひ、口越かろしめ富貴を思ひ貧なる人を見さけ申事と阿な津らず、皆官位有人と思ひ、いやしきをあなづらす、只た僧俗男女共に我か加う満んの氣越打捨て浅間敷悪業の身なる我れを南無西方浄土江連れ行き玉へと、情を深く願ふべし、信心深き念仏のくりき(マツ)には、南の字ニハ四苦八難の苦越遁れ、無阿弥の三字にハ餓鬼道の苦をのかれ、陀の一字にハ畜生道の苦越のかれ、仏の一字ニハ一百三十六地獄の苦を通れ申す故に、念仏の行者の身ハ今生にてハ榮花越さかえ、子孫繁昌にして後世ハ成仏に疑ひ無き者也、故に一念無量ざ以現世

無量摂取不捨と説き玉ふな利

只タ茂ふセ よ路津の罪はふかくとも

我が本願の あらんかきりハ

印

夫百万遍念仏の由来ヲ奉尋ニ、京都浄土宗四ヶの本山の随一長徳山智恩寺第十三世善阿上人操り初め給へり、其故ハ、人皇九十五代後醍醐の天皇の御宇、元弘元年七月三日大地震及び疫病天下に流行し、万民多く悩乱して死する者其数越知らず、帝者深く悲ミ思召、諸寺諸山の智識高僧に詔まして御祈禱甚ク執行御多くありといへとも、更に其驗しなく、帝は余りに歎き玉へ智恩寺の善阿上人を召シ、浄土宗ニ鎮護国家の祈願あらば速に執行して万民を助けよと論言有^(マ)けれバ、其時上人勅を請玉ひ、謹而曰す、浄土宗におゐてハ、念仏三昧を以て国家安全万民快樂の最要とセリ、諸の三昧甚タ多シといふとも、念仏三昧に過たるハなし、此故に経ニは三昧王と説く摩訶止観ニハ法門主と釈せり、余の三昧ハ只能く貪を除くとも瞋癡を除く事能ハズ、或ハ三まひあり瞋癡を除くとも貪を除く事能ハす、或ハ三昧あり唯よく癡を除へて貪

瞋をのぞく事あたわず、或ハ三昧阿里、只よく現在の障^{サリ}りを除き、過去未来一切も路^カの障りを除く事あたわず、若シよく常に念仏三昧越修せば、現在過去未来を問事なく一切諸のさわり感^カく皆除く也、そのミならず心を誠にして真向すれハ、禍ひを転して福ひを得、延命長寿を保ツと経文ニ分明也、此故に弥陀を無量寿如来と申奉る、殊更誓願にも広濟衆厄難と広く衆生の災難を救ひ安穩長寿を守り与へ賜ハズ、本誓奈ニか虚しからずと勅答ありけれハ、帝は叡感浅からず、急き念仏三昧を修行し、国家の災難を除くべしと論言あり、上人勅定を承り頓て本山に立帰り、称名念仏百万遍唱へ玉ふ、広濟衆厄難現世無比衆の金言虚しからず、疫癘災難忽^ニ地ニ除き去る、万民病悩鎮りて国家穩ニ成け里、是則帝は御信力のなす所、又是弥陀の本願に与る所也、帝御感甚く勅命有て智恩寺越百万遍寺と号し改むべし論^(論)旨を下され、亦タ禁裏御宝物の弘法大師の真筆弥陀利劔の御名号を賜り、智恩寺永代の靈宝とす、夫与り己来天下に災難ありし時ハ、論旨ありて百万遍越執行せらるゝ也、亦人皇百三代後花園院の御宇ニ而、文安六年に数日大地震あ

り、また寛正二年の疫病にも百万遍を執行せらるゝ也、
 また同三年正月、日輪三尊ニ出現有り、同三月上旬より
 疫癘流行す、同四月二十六日御祈禱の論旨越賜り百万返
 念仏を執行す、此時も疫癘災難忽ちに退く、亦其後人皇
 百四代土御門の御宇文明元年ニ悪星出現す、同四月十九
 日智恩寺ニ論旨を賜り百万返執行せらる也、悪星忽ニ退
 きぬ、件の論旨等今に智恩寺の宝物となり末代の龜鑑と
 なれ利、夫ガ已來諸国に弘り在々所々において災難病苦
 有る時ハ僧俗男女百万返を執行し災難を退け病苦を免か
 れ長久にして無病なる人其数を志らず、心阿らん方々
 は、執行して寿命長久を願ひ、子孫繁昌を祈里給ふべ
 し、爰に暫く經説を記す、念仏增長せしめん、本樓經ニ
 曰未來末世の一切の衆生南無阿彌陀仏と一百万返越すれ
 ハ、諸の苦遠く離す、又月証三昧經ニ曰若人重病苦痛逗
 迫（溜カ）して療治すべき事も無き時、念仏三昧して捨ざれば、
 一切病苦悉く除く、亦大悲經ニ曰一度合掌して称念すれ
 ハ、福德無量無辺也、普覺經ニ曰一切の衆生日ニ南無阿
 彌陀仏と称すれば、一切功德の中の最上とす、また般若
 三昧經ニ曰一切仏国の中ニみてん珍宝をもつて布施し諸

仏供養せんに、もし此の三昧經を聞事あらん者ハ、其福
 祐を得る事彼にも過たり、又觀仏三昧經ニ曰、若人南無
 阿彌陀仏と称念すれハ得る所の福德無量無辺なり、又十
 二仏名經ニ曰、仏名を保ッ者ハ衆魔破局も行住座臥の所
 に其便りを得る事あたはず、又陀羅尼集經ニ曰、七宝を
 以十方一切の諸仏を布施せんより、一度南無阿彌陀仏と
 称念するニハ志かじ、又浄土三昧經ニ曰、二十五の善神
 の化して常はずいらくし、念仏越守護せしむ、又唯無三
 昧經ニ曰、念仏の人をハ則ち延命転寿安樂を得せしむ、亦
 タ十往來經ニ日常に二十五の菩薩をして念仏の行者を守
 護し、悪鬼神のために行者越惱乱せしめず、日夜常に安
 樂せしむ、亦タ護身咒經に曰、三十六部の神王万億恒沙
 の鬼神有ゆる眷屬となり、念仏の衆生越守護すと説き玉
 ひ里、屢々迷るに違あらず唯仰ても是越執行すべし云々

丸品浄土窟三世

嘉永五壬子年弥生月 迎替判

印 印

中芦川邑

龍澤太右衛門殿

(鳴沢・小林玲作)

一	經卷番号	奥	書	天
先祖代々一切精靈 為子孫長久 施主 渡辺富右衛門 蚕繁栄 三卷之内 外ニ金巻両 永代転読料ニ納ル也 甲斐州都留郡成沢郷 成沢山通玄禪寺 現住 恐山代置之 安政四丁巳歲三月十八日 願主人名簿 蓮華寺且中 渡辺富右衛門 当所 当寺且中 渡辺仁右衛門				

4〔経卷六百卷寄進者奥書〕 安政四年（一八五七）
〔解説〕 通玄寺に所蔵される大般若経（鉄眼版）六百卷は、安政四年（一八五七）三月十八日、ときの住持恐山師の什物として整備された。願主は蓮華寺且中の渡辺富右衛門らで、先祖代々の精霊を慰め、無病息災を念じ、また養蚕の豊作・商売繁盛・子孫長久の願いをこめて寄進した。

六	五	四	三	二	
三卷之内 為先祖代々精霊位 大明見村 忠兵衛	三卷之内 為豊室惠嬢信女 大明見郷 忠兵衛	三卷之内 為心鏡道円信士 大明見村 忠兵衛	三卷之内 村 富右衛門 天三	三卷之内 村 富右衛門 天二	同 円通寺且中 佐藤源次右衛門 同 西方寺且中 小林多右衛門 同 当寺且中 同 大田和渡辺徳右衛門 同 渡辺徳兵衛 同 渡辺伝次右衛門 同 渡辺伝右衛門 同 渡辺市良左衛門 西之湖同三浦善右衛門 当山世話人 当村 久丘衛 同 同五右衛門 同 同 庄右衛門 同 同 良 蔵 同 同 歌右衛門 同 同 善之丞 同 大田和 彦右衛門 同 同 儀右衛門 同 同 猶兵衛 同 同 善次右衛門 同 同 小十郎 同 同 与五兵衛
天六	天五	天四	天三	天二	

二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七
為蚕繁昌 壹卷 村平次郎	為蚕繁昌 三卷之内 村房藏	為蚕繁昌 三卷之内 村房藏	三卷之内 村房藏	貳卷之内 村弥市右衛門	貳卷之内 村弥市右衛門	五卷之内 村和十郎	五卷之内 村和十郎	五卷之内 村和十郎	五卷之内 村和十郎	五卷之内 村和十郎	為蚕繁榮 二卷之内 村庄右衛門	為先祖代々 二卷之内 村庄右衛門	為先祖代々 壹卷 村多右衛門	為先祖代々 壹卷 村源次右衛門
玄一	地十	地九	地八	地七	地六	地五	地四	地三	地二	地一	天十	天九	天八	天七

四十	三十九	三十八	三十七	三十六	三十五	三十四	三十三	三十二	三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二
為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 母	為 拾卷之内 源八郎	為 拾卷之内 源八郎	為七月十七日 母 參卷之内村もん女	為七月十七日 母 參卷之内村もん女	為七月十七日 母 參卷之内村もん女	為 貳卷之内 村源八郎 源右衛門	為 貳卷 村源八郎 源右衛門	壹卷 村源市郎	為蚕繁昌 壹卷 村平四郎	為蚕繁榮 貳卷之内 村伝兵衛	為蚕繁昌 貳卷之内 村伝兵衛
黄十	黄九	黄八	黄七	黄六	黄五	黄四	黄三	黄二	黄一	玄十	玄九	玄八	玄七	玄六	玄五	玄四	玄三	玄二

六十	五十九	五十八	五十七	五十六	五十五	五十四	五十三	五十二	五十一	五十	四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四	四十三	四十二	四十一
為蚕繁榮	為先祖代々	為蚕繁昌	為先祖代々	為蚕繁榮	為先祖代々	為蚕繁昌	為先祖代々	為蚕繁昌	為先祖代々	為蚕繁昌	為	為蚕繁榮	為蚕繁昌	為先祖代々	為蚕繁昌	為先祖代々	為菩提	為菩提	為菩提
拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷之内	拾卷	壹卷	五卷之内	五卷之内	五卷之内	五卷之内	五卷之内	壹卷	壹卷	壹卷
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	清之丞	伝	三左衛門	左衛門	左衛門	左衛門	左衛門	左衛門	ちう女	丈左衛門	治郎左衛門
宙十	宙九	宙八	宙七	宙六	宙五	宙四	宙三	宙二	宙一	宇十	宇九	宇八	宇七	宇六	宇五	宇四	宇三	宇二	宇一

七十八	七十七	七十六	七十五	七十四	七十三	七十二	七十一	七十	六十九	六十八	六十七	六十六	六十五	六十四	六十三	六十二	六十一
十卷之内	十卷之内	十卷之内	十卷之内	十卷之内	十卷之内	十卷之内	十卷之内	一卷	二卷之内	二卷之内	一卷	一卷	一卷	一卷	為子孫長久	為子孫長久	為子孫長久
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
友右衛門	友右衛門	友右衛門	友右衛門	友右衛門	友右衛門	友右衛門	友右衛門	直之進	良助	良助	増右衛門	定右衛門	孫右衛門	孫右衛門・孫八	忠右衛門	忠右衛門	忠右衛門
荒七	荒六	荒五	荒四	荒三	荒二	荒一	荒一	洪十	洪九	洪八	洪七	洪六	洪五	洪四	洪三	洪二	洪一

七十九	十卷之内	村	友右衛門	荒九
八十	十卷之内	村	友右衛門	荒十
八十一	二卷之内	村	七郎右衛門	日一
八十二	二卷之内	村	七良右衛門	日二
八十三	一卷	村	勘兵衛	日三
八十四	二卷之内	村	市兵衛	日四
八十五	二卷之内	村	市兵衛	日五
八十六	為廻邨周転禪定門	三卷之内	村弥次右衛門	日六
八十七	為岳峰妙幻禪定尼	三卷之内	村弥次右衛門	日七
八十八	為先祖代々	三卷之内	村弥次右衛門	日八
八十九	為	二卷之内	村甚左衛門	日九
九十		二卷之内	村甚左衛門	日十
九十一	為先祖代々	四卷之内	村半兵衛	月一
九十二	為蚕繁榮	四卷之内	村半兵衛	月二
九十三	為先祖代々	四卷之内	村半兵衛	月三
九十四	為蚕繁昌	四卷之内	村半兵衛	月四

九十五	為先祖代々	卷卷	村元	八	月五
九十六	為先祖代々	五卷之内	村忠治右衛門		月六
九十七	為先祖代々	五卷之内	村忠治右衛門		月七
九十八	為子孫長久	五卷之内	村忠治右衛門		月八
九十九	為先祖代々	五卷之内	村忠治右衛門		月九
一百	為子孫長久	五卷之内	村忠治右衛門		月十
一百一	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈一	
一百二	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈二	
一百三	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈三	
一百四	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈四	
一百五	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈五	
一百六	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈六	
一百七	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈七	
一百八	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈八	
一百九	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈九	
一百十	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	盈十	
一百十一	為菩提	二拾卷之内	村	忠五郎同妻	月一
一百十二	二十卷之内	村	忠五郎同妻	月二	
一百十三	二十卷之内	村	忠五郎同妻	月三	

百二十九	百二十七	百二十六	百二十五	百二十四	百二十三	百二十二	百二十一	百二十	百十九	百十八	百十七	百十六	百十五	百十四
為先祖代々 為蚕繁栄 為先祖代々	為先祖代々 為蚕繁栄 為先祖代々	為蚕繁昌 二卷之内 村 又 兵衛	為先祖代々 蚕繁昌 五卷之内 村 孫左衛門	為先祖代々 二卷之内 村 又 兵衛	為蚕繁栄 三卷之内 村 栄三郎	為先祖代々 蚕繁昌 三卷之内 村 栄三郎	為先祖代々 蚕繁昌 三卷之内 村 栄三郎	為菩提 二十卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻	二拾卷之内 村 忠五郎同妻
辰九	辰八	辰六	辰五	辰四	辰三	辰二	辰一	辰十	辰九	辰八	辰七	辰六	辰五	辰四

百四十七	百四十六	百四十五	百四十四	百四十三	百四十二	百四十一	百四十	百三十九	百三十八	百三十七	百三十六	百三十五	百三十四	百三十三	百三十二	百三十一	百三十
八卷之内 村 徳左衛門	八卷之内 村 徳左衛門	八卷之内 村 徳左衛門	八卷之内 村 徳左衛門	八卷之内 村 徳左衛門	為蚕繁昌 二卷之内 村 又 蔵	為先祖代々 二卷之内 村 又 蔵	為先祖代々 蚕繁昌 考卷 村 次右衛門	為先祖代々 三卷之内 村 善蔵	為先祖代々 三卷之内 村 善蔵	為先祖代々 三卷之内 村 善蔵	為先祖代々 三卷之内 村 幸兵衛	為先祖代々 三卷之内 村 幸兵衛	為先祖代々 三卷之内 村 幸兵衛	三卷之内 村 忠八	三卷之内 村 忠八	三卷之内 村 忠八	為蚕繁昌 村 孫左衛門
列七	列六	列五	列四	列三	列二	列一	宿十	宿九	宿八	宿七	宿六	宿五	宿四	宿三	宿二	宿一	辰十

百四十八	百四十九	百五十	百五十一	百五十二	百五十三	百五十四	百五十五	百五十六	百五十七	百五十八	百五十九	百六十	百六十一	百六十二	百六十三	百六十四	百六十五
八卷之内	八卷之内	八卷之内	五卷之内	五卷之内	五卷之内	五卷之内	五卷之内	三卷之内	三卷之内	三卷之内	二卷之内	二卷之内	一卷	四卷之内	四卷之内	四卷之内	四卷之内
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
徳左衛門	徳左衛門	徳左衛門	仁右衛門・妻	仁右衛門・妻	仁右衛門・妻	仁右衛門・妻	仁右衛門・妻	儀右衛門	儀右衛門	儀右衛門	藤右衛門	藤右衛門	作	権	権	権	権
列八	列九	列十	張一	張二	張三	張四	張五	張六	張七	張八	張九	張十	寒一	寒二	寒三	寒四	寒五

百六十六	百六十七	百六十八	百六十九	百七十	百七十一	百七十二	百七十三	百七十四	百七十五	百七十六	百七十七	百七十八	百七十九
一卷	二卷之内	二卷之内	二卷之内	二卷之内	六卷之内	六卷之内	六卷之内	六卷之内	六卷之内	六卷之内	三卷之内	三卷之内	三卷之内
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
喜右衛門	清右衛門	清右衛門	政右衛門	政右衛門	徳兵衛	徳兵衛	徳兵衛	徳兵衛	徳兵衛	徳兵衛	兵衛	兵衛	兵衛
寒六	寒七	寒八	寒九	寒十	来一	来二	来三	来四	来五	来六	来七	来八	来九

二百	百九十九	百九十八	百九十七	百九十六	百九十五	百九十四	百九十三	百九十二	百九十一	百九十	百八十九	百八十八	百八十七	百八十六	百八十五	百八十四	百八十三	百八十二	百八十一	百八十	
拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	拾三卷之内 村 善左衛門	為先祖代々 為蚕繁栄 拾三卷之内 村 善左衛門	為先祖代々 耆卷 村 よし 女
往十	往九	往八	往七	往六	往五	往四	往三	往二	往一	暑十	暑九	暑八	暑七	暑六	暑五	暑四	暑三	暑二	暑一	来十	

二百十九	二百十八	二百十七	二百十六	二百十五	二百十四	二百十三	二百十二	二百十一	二百十	二百九	二百八	二百七	二百六	二百五	二百四	二百三	二百二	二百一
為蚕繁栄 耆卷 村 九五郎	為蚕繁栄 三卷之内 村 伝五右衛門	為蚕繁栄 三卷之内 村 伝五右衛門	為蚕繁栄 三卷之内 村 伝五右衛門	為先祖代々 五卷之内 村 寅 藏	為先祖代々 五卷之内 村 寅 藏	為先祖代々 五卷之内 村 寅 藏	為先祖代々 五卷之内 村 寅 藏	為先祖代々 五卷之内 村 寅 藏	為蚕繁栄 二卷之内 村 八左衛門	為蚕繁栄 二卷之内 村 八左衛門	為蚕繁栄 五卷之内 村 清 助	為先祖代々 五卷之内 村 清 助	為蚕繁栄 五卷之内 村 清 助	為先祖代々 五卷之内 村 清 助	為先祖代々・蚕繁栄 五卷之内 村 清 助	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門	拾三卷之内 村 半左衛門
収九	収八	収七	収六	収五	収四	収三	収二	収一	秋十	秋九	秋八	秋七	秋六	秋五	秋四	秋三	秋二	秋一

二百二十	為先祖代々 壹卷 村 九五郎・母	取十
二百二十一	為先祖代々 為蚕繁栄 五卷之内 村 栄左衛門	冬一
二百二十二	為先祖代々 為蚕繁栄 五卷之内 村 栄左衛門	冬二
二百二十三	為蚕繁栄 五卷之内 村 栄左衛門	冬三
二百二十四	為先祖代々 五卷之内 村 栄左衛門	冬四
二百二十五	為蚕繁栄 五卷之内 村 栄左衛門	冬五
二百二十六	為先祖代々 二卷之内 村 勘左衛門	冬六
二百二十七	為蚕繁栄 二卷之内 村 勘左衛門	冬七
二百二十八	為先祖代々 二卷之内 村 宫内右衛門	冬八
二百二十九	為蚕繁栄 二卷之内 村 宫内右衛門	冬九
二百三十	壹卷 村 吉左衛門	冬十
二百三十一	為先祖代々 為蚕繁栄 二拾卷之内 村 利右衛門	蔵一
二百三十二	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵二
二百三十三	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵三
二百三十四	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵四
二百三十五	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵五
二百三十六	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵六

二百三十七	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵七
二百三十八	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵八
二百三十九	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵九
二百四十	二拾卷之内 村 利右衛門	蔵十
二百四十一	為先祖代々 為蚕繁栄 二拾卷之内 村 利右衛門	閏一
二百四十二	二拾卷之内 村 利右衛門	閏二
二百四十三	二拾卷之内 村 利右衛門	閏三
二百四十四	二拾卷之内 村 利右衛門	閏四
二百四十五	二拾卷之内 村 利右衛門	閏五
二百四十六	二拾卷之内 村 利右衛門	閏六
二百四十七	二拾卷之内 村 利右衛門	閏七
二百四十八	二拾卷之内 村 利右衛門	閏八
二百四十九	二拾卷之内 村 利右衛門	閏九
二百五十	為先祖代々 為蚕繁栄 二拾卷之内 村 利右衛門	閏十
二百五十一	為先祖代々 為蚕繁栄 五卷之壹 村 半兵衛	余一
二百五十二	為先祖代々 為蚕繁栄 五卷之内 村 半兵衛	余二
二百五十三	為蚕繁栄 五卷之内 村 半兵衛	余三
二百五十四	為蚕繁栄 五卷之内 村 半兵衛	余四
二百五十五	為蚕繁栄 五卷之内 村 半兵衛	余五

二百七十	為菩提	卷卷	村	三左衛門養母	成十
二百六十八	為先祖代々 為蚕繁栄	二卷之内 二卷之内	村	園右衛門	成八
二百六十九	為先祖代々 為蚕繁栄	二卷之内	村	園右衛門	成九
二百六十七	為菩提	卷卷	村	園右衛門母	成七
二百六十六	為先祖代々 為蚕繁昌	卷卷	村	園右衛門母	成六
二百六十五	為先祖代々 為蚕繁昌	五卷之内	村	幸右衛門	成五
二百六十四	為先祖代々 十二月廿日父母 蚕繁昌	五卷之内	村	幸右衛門	成四
二百六十三	為先祖代々 蚕繁昌	五卷之内	村	幸右衛門	成三
二百六十二	為先祖代々 十二月廿日父母 蚕繁昌	五卷之内	村	幸右衛門	成二
二百六十一	為十二月廿日父母 蚕繁昌	五卷之内	村	幸右衛門	成一
二百五十八	為先祖代々 蚕繁昌	三卷之内	村	市右 <small>(衛門)カ</small>	余八
二百五十九	為先祖代々 蚕繁昌	三卷之内	村	市右衛門	余九
二百六十	為蚕繁昌	三卷之内	村	市右衛門	余十
二百五十七	為先祖代々 蚕繁栄	二卷之内	村	利兵衛	余六

二百八十一	為先祖代々	拾五卷	村	民右衛門	律一
二百八十二	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	律二
二百八十三	為蚕繁栄	拾五卷之内	村	民右衛門	律三
二百八十四	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	律四
二百八十五	為蚕繁昌	拾五卷之内	村	民右衛門	律五
二百八十六	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	律六
二百八十七	為蚕繁昌	拾五卷之内	村	民右衛門	律七
二百八十八	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	律八
二百七十一	為	卷卷	村	弥五市	歳一
二百七十二	為	四卷之内	村	源五左衛門	歳二
二百七十三	為	四卷之内	村	源五左衛門	歳三
二百七十四	為	四卷之内	村	源五左衛門	歳四
二百七十五	為	四卷之内	村	源五左衛門	歳五
二百七十六	為先祖代々 蚕繁栄	拾五卷之内	村	民右衛門	歳六
二百七十七	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	歳七
二百七十八	為蚕繁昌	拾五卷之内	村	民右衛門	歳八
二百七十九	為先祖代々	拾五卷之内	村	民右衛門	歳九
二百八十	為蚕繁栄	拾五卷之内	村	民右衛門	歳十

三百二十八	拾卷之内 村 善右衛門 同妻	雲八
三百二十九	拾卷之内 村 善右衛門 同妻	雲九
三百三十	拾卷之内 村 善右衛門 同妻	雲十
三百三十一	一卷 村 成宝院	騰一
三百三十二	一卷 村 成宝院養母	騰二
三百三十三	一卷 村 文五郎	騰三
三百三十四	二卷之内 村 周兵衛	騰四
三百三十五	二卷之内 村 周兵衛	騰五
三百三十六	十五卷之内 村 浅右衛門	騰六
三百三十七	十五卷之内 村 浅右衛門	騰七
三百三十八	十五卷之内 村 浅右衛門	騰八
三百三十九	十五卷之内 村 浅右衛門	騰九
三百四十	十五卷之内 村 浅右衛門	騰十
三百四十一	為先祖代々 拾五卷之内 村 浅右衛門 悱勝兵衛 悱竹次郎	致一
三百四十二	拾五卷之内 村 浅右衛門 悱勝兵衛	致二
三百四十三	拾五卷之内 村 浅右衛門 悱勝兵衛	致三
三百四十四	拾五卷之内 村 浅右衛門 悱勝兵衛	致四

三百四十五	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致五
三百四十六	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致六
三百四十七	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致七
三百四十八	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致八
三百四十九	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致九
三百五十	拾五卷之内 村 浅右衛門悱勝兵衛	致十
三百五十一	為先祖代々 老卷 村 徳右衛門	雨一
三百五十二	為先祖代々 老卷 村 久米吉	雨二
三百五十三	為先祖代々 老卷 村 萬兵衛	雨三
三百五十四	為先祖代々 老卷 村 庄吉	雨四
三百五十五	為先祖代々 老卷 村 茂兵衛	雨五
三百五十六	為先祖代々 老卷 村 伊右衛門妻	雨六
三百五十七	為先祖代々 老卷 村 菊之進	雨七
三百五十八	為先祖代々 二卷之内 村 忠吉	雨八
三百五十九	為先祖代々 二卷之内 村 忠吉	雨九

三百六十	為先祖代々 為蚕繁昌	老卷	村	民五郎	雨十
三百六十一	為先祖代々	六卷之内	村	伝十郎	露一
三百六十二	為蚕繁昌	六卷之内	村	伝十郎	露二
三百六十三	為先祖代々	六卷之内	村	伝十郎	露三
三百六十四	為蚕繁昌	六卷之内	村	伝十郎	露四
三百六十五	為先祖代々	六卷之内	村	伝十郎	露五
三百六十六	為蚕繁昌	六卷之内	村	伝十郎	露六
三百六十七	為先祖代々 為蚕繁昌	老卷	村	萩右衛門	露七
三百六十八	為先祖代々 為蚕繁昌	老卷	村	谷右衛門	露八
三百六十九	為先祖代々	二卷之内 村東ノ		半左衛門	露九
三百七十	為蚕繁昌	二卷之内 村東ノ		半左衛門	露十
三百七十一	為先祖代々 為蚕繁昌	五卷之内	村	市左衛門	結一
三百七十二	為先祖代々	五卷之内	村	市左衛門	結二
三百七十三	為蚕繁昌	五卷之内	村	市左衛門	結三
三百七十四	為先祖代々	五卷之内	村	市左衛門	結四
三百七十五	為蚕繁昌	五卷之内	村	市左衛門	結五
三百七十六	為先祖代々 為蚕繁昌	五卷之内	村	おな越女	結六
三百七十七	為先祖代々	五卷之内	村	おな越女	結七
三百七十八	為菩提	五卷之内	村	おなを女	結八

三百七十九	為菩提	五卷之内	村	おなを女	結九
三百八十	為菩提	五卷之内	村	おなを女	結十
三百八十一	為先祖代々	二卷之内	村	平右衛門	為一
三百八十二	為蚕繁昌	二卷之内	村	平右衛門	為二
三百八十三	為先祖代々	二卷之内	村	久左衛門	為三
三百八十四	為蚕繁昌	二卷之内	村	久左衛門	為四
三百八十五	為先祖代々 為蚕繁昌	一卷	村	蔵右衛門	為五
三百八十六	為先祖代々 為蚕繁昌	三卷之内 村東		仁右衛門	為六
三百八十七	為先祖代々	三卷之内 村東		仁右衛門	為七
三百八十八	為蚕繁昌	三卷之内 村東		仁右衛門	為八
三百八十九	為先祖繁昌	一卷	村	由兵衛	為九
三百九十	為先祖代々 為蚕繁昌	一卷	村	嘉左衛門	為十
三百九十一	為先祖代々	五卷之内	村	繁右衛門	霜一
三百九十二	為先祖代々	五卷之内	村	繁右衛門	霜二
三百九十三	為蚕繁昌	五卷之内	村	繁右衛門	霜三
三百九十四	為先祖代々	五卷之内	村	繁右衛門	霜四
三百九十五	為蚕繁昌	五卷之内	村	繁右衛門	霜五

四百十一	四百十	四百九	四百八	四百七	四百六	四百五	四百四	四百三	四百二	四百一	四百	三百九十九	三百九十八	三百九十七	三百九十六
為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄	為先祖代々 為蚕繁栄
十卷之内 村銀蔵	二卷之内 大田和 善次右衛門	二卷之内 大田和 善次右衛門	一卷 大田和 儀右衛門	一卷 大田和村彦右衛門	四卷之内 村幸左衛門	四卷之内 村幸左衛門	四卷之内 村幸左衛門	四卷之内 村幸左衛門	二卷之内 村五右衛門	二卷之内 村五右衛門	四卷之内 村久兵衛	四卷之内 村久兵衛	四卷之内 村久兵衛	四卷之内 村久兵衛	壹卷 村治部左衛門
生一	金十	金九	金八	金七	金六	金五	金四	金三	金二	金一	霜十	霜九	霜八	霜七	霜六

四百二十九	四百二十八	四百二十七	四百二十六	四百二十五	四百二十四	四百二十三	四百二十二	四百二十一	四百二十	四百十九	四百十八	四百十七	四百十六	四百十五	四百十四	四百十三	四百十二
為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌	為先祖代々 為蚕繁昌
二卷之内 大田和 与五兵衛	二卷之内 大田和 与五兵衛	壹卷 大田和 小重郎	壹卷 大田和 猶兵衛	五卷之内 大田和 德右衛門	五卷之内 大田和 德右衛門	五卷之内 大田和 德右衛門	五卷之内 大田和 德右衛門	五卷之内 大田和 德右衛門	五卷之内 大田和 德右衛門	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵	十卷之内 村銀蔵
麗九	麗八	麗七	麗六	麗五	麗四	麗三	麗二	麗一	生十	生九	生八	生七	生六	生五	生四	生三	生二

四百三十	為先祖代々 一卷 大田和 五郎右衛門	麗十
四百三十一 四百三十二 四百三十三 四百三十四 四百三十五	為先祖代々 無縁各靈 為先祖代々 為無縁各靈 為先祖代々 為無縁各靈 為先祖代々 為無縁各靈	水一 水二 水三 水四 水五
四百三十六 四百三十七 四百三十八 四百三十九 四百四十	為先祖代々 為蚕繁栄 為先祖代々 為先祖代々 為蚕繁栄	水六 水七 水八 水九 水十
四百四十一 四百四十二 四百四十三 四百四十四 四百四十五	為先祖代々 五卷之内 大田和伝右衛門 五卷之内 大田和伝右衛門 五卷之内 大田和伝右衛門 五卷之内 大田和伝右衛門 五卷之内 大田和伝右衛門	玉一 玉二 水三 水四 水五

四百四十六 四百四十七 四百四十八 四百四十九 四百五十	為先祖代々 為無縁各靈 為先祖代々 為無縁各靈 為先祖代々 為無縁各靈	水六 水七 水八 水九 水十
四百五十一	為先祖代々 彦卷 大田和 平右衛門後家もよ女	出一
四百五十二 四百五十三	為先祖代々 為無縁各靈 式卷之内 大田和八五郎	出二 出三
四百五十四 四百五十五	為先祖代々 彦卷 大田和 善兵衛 彦卷 大田和 嘉右衛門	出四 出五
四百五十六 四百五十七 四百五十八 四百五十九	為先祖代々 彦卷 大田和 兵右衛門 為先祖代々 三卷之内 大田和 甚左衛門 為先祖代々 三卷之内 大田和 甚左衛門 為先祖代々 三卷之内 大田和 甚左衛門	出六 出七 出八 出九

四百七十	四百六十九 四百七十	四百六十八	四百六十七	四百六十六	四百六十五	四百六十四	四百六十三	四百六十二	四百六十一	四百六十
為先祖代々 二卷之内 大田和 丈右衛門	為先祖代々 二卷之内 大田和 与兵衛	為先祖代々 二卷之内 大田和 伊左衛門後家 つめ女	為先祖代々 二卷之内 大田和 伊左衛門後家 つめ女	為先祖代々 菅卷 大田和治五右衛門	為先祖代々 菅卷 大田和 孫右衛門	為先祖代々 菅卷 大田和 元兵衛	為先祖代々 菅卷 大田和 礼 藏	為先祖代々 菅卷 大田和 彦之丈	為先祖代々 菅卷 大田和 長十郎	為先祖代々 菅卷 大田和 安左衛門
岡一	崑九 崑十	崑八	崑七	崑六	崑五	崑四	崑三	崑二	崑一	出十

四百八十四	四百八十三	四百八十二	四百八十一	四百八十	四百七十九 四百七十八	四百七十七	四百七十六 四百七十五	四百七十四	四百七十三	四百七十二
為先祖代々 一卷 大田和 清兵衛	為先祖代々 一卷 大田和 伝五右衛門	為先祖代々 一卷 大田和 市之丞	為先祖代々 一卷 大田和 幸兵衛	為先祖代々 菅卷 大田和 弥兵衛	為先祖代々 二卷之内 大田和 重左衛門 菅卷 大田和 重左衛門	為先祖代々 菅卷 大田和 由右衛門	為先祖代々 二卷之内 大田和 吉兵衛 菅卷 大田和 吉兵衛	為先祖代々 菅卷 大田和 与五左衛門	為先祖代々 菅卷 大田和 周右衛門	為無縁各靈 二卷之内 大田和 丈右衛門
劍四	劍三	劍二	劍一	岡十	岡九 岡八	岡七	岡六 岡五	岡四	岡三	岡二

四百八十五	為先祖代々 二卷 大田和 久右衛門	劍五
四百八十六	為蚕繁昌 二卷之内 大田和 久右衛門	劍六
四百八十七	為先祖代々 一卷 大田和 浅兵衛	劍七
四百八十八	為先祖代々 一卷 大田和 谷藏	劍八
四百八十九	為先祖代々 一卷 大田和 岩吉	劍九
四百九十	為先祖代々 一卷 大田和 孝吉	劍十
四百九十一	為先祖代々 二卷 大田和 平右衛門	号一
四百九十二	為無縁各靈 二卷 大田和 平右衛門	号二
四百九十三	為先祖代々 一卷 大田和 幸助	号三
四百九十四	為先祖代々 一卷 大田和 藤吉	号四
四百九十五	為先祖代々 一卷 大田和 儀兵衛	号五
四百九十六	為先祖代々 一卷 大田和 郷右衛門	号六
四百九十七	為先祖代々 一卷 大田和源次右衛門	号七

四百九十八	為先祖代々 一卷 大田和 又右衛門 權兵衛	号八
四百九十九	為先祖代々 一卷 舟津村 源左衛門	号九
五百	為先祖代々 一卷 舟津村 半助	号十
五百一	筥・五百一〜五百十四まで奥書きなし	号一
五百二		巨二
五百三		巨三
五百四		巨四
五百五		巨五
五百六		巨六
五百七		巨七

栄七後家

大田和村 七良左衛門・於与志女・金兵衛・於百女・弥市右衛門・於牧女・伝兵衛・半兵衛・国右衛門・政兵衛・平三郎・吉右衛門・重左衛門

五百十八	五百十七	五百十六	五百十五	五百十四	五百十三	五百十二	五百十一	五百十	五百九	五百八
為先祖代々 老卷 下吉田村 弥源太	為盛叟自徳居士 下吉田村 老卷 安之右衛門父	為先祖代々各位 老卷 下吉田村 元三郎	為海雲玄暉上座 老卷 下吉田村 大兵衛父							
闕八	闕七	闕六	闕五	闕四	闕三	闕二	闕一	巨十	巨九	巨八

五百三十六	五百三十七	五百三十五	五百三十四	五百三十三	五百三十二	五百三十一	五百三十	五百二十九	五百二十八	五百二十七	五百二十六	五百二十五	五百二十四	五百二十三	五百二十二	五百二十一	五百二十	五百十九
為菩提 二卷之内 西之湖喜助・母	為菩提 二卷之内 西之湖喜助・母	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 西之湖儀右衛門	為菩提 五卷之内 長浜 源左衛門	為菩提 五卷之内 長浜 源左衛門	為菩提 五卷之内 長浜 源左衛門	為菩提 五卷之内 長浜 源左衛門	為菩提 五卷之内 長浜 源左衛門	為菩提 五卷之内 長浜 兵之丞	為菩提 五卷之内 長浜 兵之丞	為菩提 五卷之内 長浜 兵之丞	為菩提 五卷之内 長浜 兵之丞	為菩提 老卷 西之海 元兵衛母	為先祖代々 老卷 新下吉田村 由左衛門
称六	称七	称五	称四	称三	称二	称一	珠十	珠九	珠八	珠七	珠六	珠五	珠四	珠三	珠二	珠一	闕十	闕九

五百三十八	為菩提	二卷之内	西之湖勢	ち女	称八
五百三十九	為菩提	二卷之内	西之湖勢	ち女	称九
五百四十	為菩提	卷卷	西之湖	清左衛門	称十
五百四十一	為菩提	卷卷	西之湖	や寿女	夜一
五百四十二	為菩提	卷卷	西之湖	は留女	夜二
五百四十三	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜三
五百四十四	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜四
五百四十五	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜五
五百四十六	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜六
五百四十七	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜七
五百四十八	為先祖代々	三卷之内	西之湖	新左衛門	夜八
五百四十九	為菩提	卷卷	西之湖	金兵衛妻 多満女	夜九
五百五十	為菩提	卷卷	西之湖	儀右衛門 妻幾久女	夜十

五百五十一	為菩提	十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光一
五百五十二		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光二
五百五十三		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光三
五百五十四		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光四
五百五十五		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光五
五百五十六		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光六
五百五拾七		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光七
五百五十八		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光八
五百五十九		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光九
五百六十		十卷之内	西之湖	善兵衛姉	光十
五百六十一	為先祖代々 蚕繁栄 子孫長久	四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果一
五百六十二		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果二
五百六十三		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果三
五百六十四		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果四
五百六十五		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果五
五百六十六		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果六
五百六十七		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果七
五百六十八		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果八
五百六十九		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果九
五百七十		四十卷之内	西之湖	三浦善右衛門	果十
五百七十一		四十卷之内	西之海	善右衛門	珍一

五百七十二	四百卷之内	西之海	善右衛門	珍二
五百七十三	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍三
五百七十四	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍四
五百七十五	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍五
五百七十六	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍六
五百七十七	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍七
五百七十八	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍八
五百七十九	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍九
五百八十	四十卷之内	西之海	善右衛門	珍十
五百八十一	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季一
五百八十二	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季二
五百八十三	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季三
五百八十四	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季四
五百八十五	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季五
五百八十六	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季六
五百八十七	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季七
五百八十八	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季八
五百八十九	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季九
五百九十	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	季十
五百九十一	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰一
五百九十二	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰二
五百九十三	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰三
五百九十四	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰四
五百九十五	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰五

五百九十六	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰六
五百九十七	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰七
五百九十八	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰八
五百九十九	四拾卷之内	西之湖	善右衛門	柰九
六百卷終	為一切精靈 先祖代々 商壳繁昌 子孫長久 四拾卷之終 西之湖 三浦善右衛門	西之湖	善右衛門	柰十

(成沢山通文寺蔵)